

高橋尚愛「This is Hisachika Takahashi」

2021. 2. 28 Sun – 3. 28 Sun

今回の展覧会において意図されていることのひとつは、高橋尚愛というアーティストに関して明かされてきた情報に新しい要素を加えることです。それは、彼よりずっと若いもうひとりのアーティスト、奥村雄樹による継続的な試みに続くものです。奥村は、銀座メゾンエルメス フォーラム

（東京）における「奥村雄樹による高橋尚愛」展（2016）や2013年までに遡るそれ以前の複数のプロジェクトを通じて、彼とその作品を探究してきました。奥村による綿密なプロジェクトの開始とほぼ同時期には、ニューヨークのショーン・ケリー・ギャラリーにおいてヒサチカ作品《フロム・メモリー・ドロウ・ア・マップ・オブ・ザ・ユナイテッド・ステイツ》が展示されたほか、インターネット上ではカーネギー・インターナショナルの共同キュレーターだったダニエル・バウマンが彼について議論を展開していました。私たちが学んできたのは、ヒサチカが生きていたこと——そして生きづついていること——であり、彼の生が、コンテンポラリー・アートの世界の中心と周縁の両方に位置するという矛盾を孕んだ魅力的な生でありつづけてきたことです。彼はまずイタリア人アーティストであるロベルト・クリッパとルシオ・フォンタナ、次にアメリカ人アーティストであるロバート・ラウシェンバーグのアシスタントを務めました。ゴードン・マッタ＝クラーク、キャロル・グッデン、ティナ・ジルアールによるレストラン「フード」に料理人として参加もすれば、現ホワイト・コラムの前身で、グリーン・ストリート112番地にあった「112 ワークショップ」でアーティストとして展示もしました。ヒサチカはたしかに存在感を放っていたのです。

そうした秘話やバイオグラフィは脇に置いて。「This is Hisachika Takahashi」展は、アーティスト本人の個人的なアーカイブから厳選された作品を介して、私たちのヒサチカへの理解をさらに進めるための試みです。本展を構成するのは、1960～1980年代にかけて彼が取り組んだ絵画、コラージュ、そしてコンセプチュアル／フォトグラフィックな記録です。MISAKO & ROSENが最初の発表となる今回の機会を通じて生成したいのは、彼のアーティストとしての位置をより良く理解するための文脈です。彼がこれまでコラボレーターとして関わってきたアーティストたちの

より広範なボキャブラリーから隔絶された場所で、そしてまたその内側において、同時に。

Hisachika Takahashi "This is Hisachika Takahashi"

2021. 2. 28 Sun – 3. 28 Sun

The present exhibition is, on one level, meant to add to the information that has surfaced regarding the artist Hisachika Takahashi; this following an ongoing exploration of the artist and his work by yet another artist, the much younger Yuki Okumura – whose exhibition “Hisachika Takahashi by Yuki Okumura” was presented at Maison Hermes Le Forum in Tokyo (2016) and in earlier projects dating back to 2013. Okumura’s in-depth project began at roughly the same time as a coinciding exhibition of Hisachika’s work, “From Memory Draw a Map of the United States”, presented at Sean Kelly in New York – as well as an on-line discussion initiated by then Carnegie International co-curator Daniel Baumann. We have learned that Hisachika lived – and continues to live – a fascinating life contradictorily both at the center and on the periphery of the contemporary art world; assistant and collaborator with both Italian artists Robert Crippa and Lucio Fontana and subsequently the American artist Robert Rauschenberg, as well as a contributor to Gordon Manta-Clark, Caroline Gooden and Tina Giouard’s restaurant Food, and a contributing artist to the earliest incarnation of what is now White Columns, 112 Workshop, 112 Greene Street, Hisachika clearly was present.

Anecdote and biography aside; This is Hisachika Takahashi stands as an attempt to further our understanding of Hisachika via a selection of work from artist’s personal archive. – the exhibition will consist of work from the 1960’s–1980’s

including painting, collage and conceptual / photographic documentation. Through this initial presentation we aim to generate a context from which to better understand the artist's position; both in isolation from and within the wider vocabulary of the artists with whom he acted as a collaborator.

-